

# 北東アジア地域環境体験プログラム

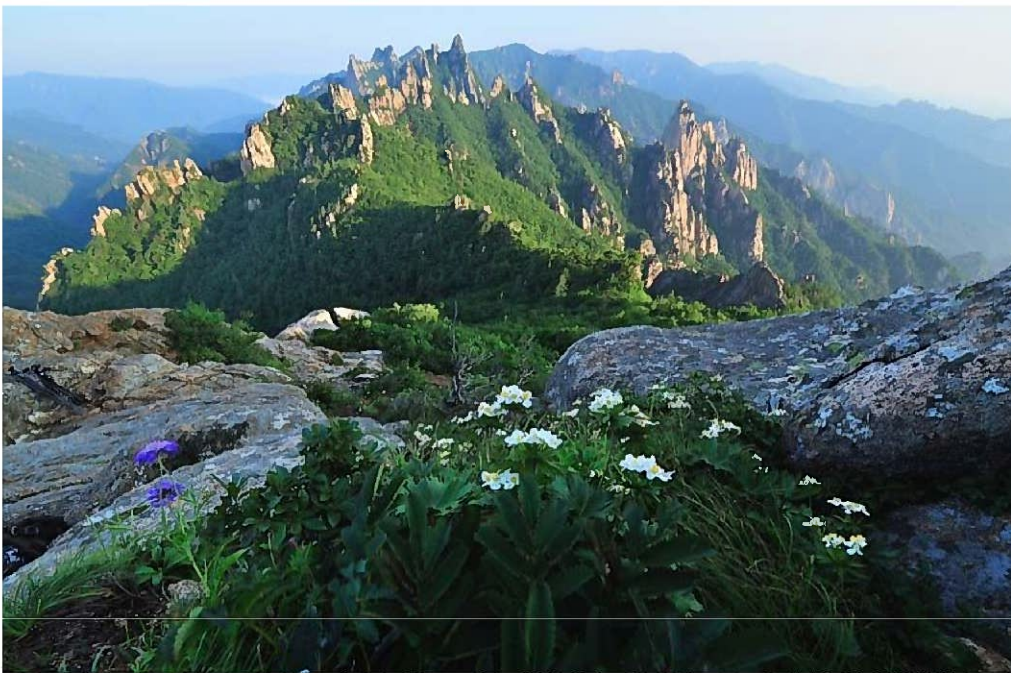
「 みんなで一緒に — 環境保全活動 」

东北亚地区环境体验活动

동북아시아지역 환경체험 프로그램

Симпозиум для школьников региона СВА

по приобретению экологического опыта



2013年8月20日(火)～21日(水)

大韓民国 江原道

主催：大韓民国江原道，日本富山県

共催：公益財団法人環日本海環境協力センター



## 北東アジア地域環境体験プログラム

### 8月20日(火)

17:00~18:00	参加者 会場集合 (沿海地方は、21:00 頃到着予定)
19:00~	会場施設の案内、部屋割り
20:00~21:00	日程案内及び夕食、引率者晚餐会
~21:00	活動発表者の事前打合せ(パワーポイント確認等)
22:00	就寝

### 8月21日(水) : プログラム1日目

08:00	朝食(食堂、宿泊棟 1F)	
09:30~10:00	開会式(研修棟講堂) 開会挨拶 ●江原道グリーン資源局長 金 徳来 (Mr. KIM Dokre) ●富山県理事・生活環境文化部次長 小野 洋 (Mr. ONO Hiroshi)	
10:00~11:00	参加者による活動発表(研修棟講堂) ●環境学習の小道「ケドロヴォエ湖」の企画(沿海地方) 【7】 ●学校内の白色ゴミを拒絶する(遼寧省) 【9】	
11:00~11:20	休憩	
11:20~11:50	参加者による活動発表 ●環境サークルの活動報告(江原道) 【10】	
12:00~13:00	昼食	
13:00~13:50	参加者による活動発表 ●若い世代が環境に優しい将来のために!(ノバロフスク地方) 【11】 ●環境保全モデル校活動(忠清南道) 【13】	
13:50~14:10	休憩	
14:10~15:30	参加者による活動発表 ●地球資源を大切にし、低炭素活動を実行する(黒龍江省) 【14】 ●国際環境委員会による、全校生徒の環境意識向上のための活動(富山県) 【15】 ●「海のゴミを減らす」グリーン環境を守るブルリダ-活動(慶尚南道) 【16】	
15:30~16:00	休憩及び準備	
16:00~17:30	トレッキング及び環境保全活動(九龍寺 Guryongsa) 記念撮影	
17:30~18:00	休憩	
18:00~19:00	夕食	
19:10~20:20	サムルノリ(伝統楽器の演奏)及びマジック鑑賞	
20:20	休憩	
20:30	出し物(自治体別)	
22:00	就寝	
	<b>&lt;発表以外の活動報告資料&gt;</b>	
	●我らは 錦山を守る SKYPE 生態環境探査隊 【Eco-Scout】 (忠清南道) 【18】	

※【】内の数字は、資料のページ番号を示します

## 8月22日(木) : プログラム2日目

08:00	朝食 (食堂、宿泊棟 1F)
09:30~10:30	北東アジア環境 UCC プロジェクト (研修棟講堂) <ul style="list-style-type: none"><li>●国内外の環境 UCC 作品例の鑑賞</li><li>●UCC 制作の説明</li></ul>
10:30~10:50	休憩
10:50~12:00	北東アジア環境 UCC プロジェクト (班別) <ul style="list-style-type: none"><li>●テーマ選定及び台本制作</li></ul>
12:00~13:00	昼食
13:00~18:00	北東アジア環境 UCC プロジェクト (班別) <ul style="list-style-type: none"><li>●小道具の準備及び役割選定</li><li>●動画撮影</li><li>●最終編集</li></ul>
18:00~19:00	夕食 (ビュッフェ式)
19:10~19:30	北東アジア環境 UCC プロジェクト全作品の鑑賞
19:30~19:50	人気投票
19:50~20:10	優秀作品 表彰式
20:10~20:30	環境宣言文発表
20:30~22:00	閉会及び自由時間
22:00	就寝

## 8月23日(金)

7:00~	朝食、 参加者 会場出発、解散
-------	--------------------

## 環境学習の小道「ケドロヴォエ湖 (Kedrovoe)」の企画

- 1 自治体名： 沿海地方
- 2 発表者名： クセーニヤ・ブルコフスカヤ (Kseniya Burkovskaya)  
ウラジオストク市アルテヨモフスキー地区第 11 総合学校
- 3 活動名： 環境学習の小道「ケドロヴォエ湖 (Kedrovoe)」の企画
- 4 活動期間： 2012-2014 年の春・秋季
- 5 活動場所： 環境学習の小道「ケドロヴォエ湖 (Kedrovoe)」
- 6 活動人数： 25 名

### 7 活動をはじめた経緯

企画の目的：環境学習の小道の構築を通して、自然を大事にする必要性を普及啓発すること、身近な自然だけではなく地球規模の自然をも思いやる気持ちを醸成すること、自然を破壊するのではなく、自然を知ること。

### 8 発表要旨

環境学習の小道の主な目的は、レクリエーション・教育・学習という三つの要素で構成される。参加者の自然科学的な視野を拡大することが学習課題に含まれている。また、教育目標は自然を愛する気持ちを育むこと、自然環境保護に関心と責任を持つこと、人々の環境文化を育むことである。

環境学習の小道の構築の対象地域はアルテヨム市付近にあるケドロヴォエ湖周辺である。

この小道は自然散策を楽しみながら学習するもので、市民の環境意識の向上、環境に配慮する人へ教育環境づくり、環境の中で人々のマナーを形成することを目的として設計した。

学習者への環境教育における主な取り組み項目は、自然と人間との適切な関係を構築することである。これは特別に整備されたルート「ケドロヴォエ湖」によって、可能になる。環境学習の小道には、看板、標識等が整備されている。この小道のルートを地図上に示すと、観察地点の番号をつなげた線の通りである。小道沿いには特定の「テーマ別のポイント」を設定した。名称がついているそれぞれのポイント

には説明メモ、観察計画、見学中に記入するテーマリストを準備している。

### 動植物の多様性の研究

学習者が観察地点で行った調査によって、50種以上の植物、30種以上の主に無脊椎の動物が同定された。収集された生物種の情報は電子データベースにまとめた。

ルート内には、一連の植物エリアが整備され、希少な植物、絶滅の恐れがある植物、ハーブ等の沿海地方独特の植物が植えられている。

### 期待されている結果及び評価方法

学習者は以下のことを知ることができる。

- 地元の生態系の多様性
- 生物の生息・生育環境の要素の重要性
- 季節の変化に伴う、生物の生息・生育条件の変化
- 環境問題としての自然破壊
- 生物を「役に立つもの」と「有害なもの」に分けることが不当であること
- 動物、虫の種構成
- ハーブ
- 毒のある植物とキノコ
- 保護されるべき生物種

学習者は以下のスキルを習得する。

- 与えられた図面を利用して、生物とその生息・生育環境の観察。結果のまとめおよび観察結果図の作成
- 創造的なプロジェクトやプレゼンテーションの自習的な（場合によって指導者の下で）立案と実施
- 天然素材を用いた工作と絵の作成

このような作業は学習と実践および労働を結び付けることを実現し、労働に対する敬意の念及び勤勉の習慣を植え付ける。学習者は自然科学の知識を深めるだけでなく、仕事と余暇の過程における人間と自然との関わり方を学ぶ。環境知識・環境教育を形成するために、環境の小道は多くの可能性を秘めている。

## 学校内の白色ゴミを拒絶する

### 1 自治体名

遼寧省

### 2 発表者名

党 文希 (Dang Wen Xi) (瀋陽市第12中学校)

### 3 活動名

学校内の白色ゴミ\*を拒絶する

※白色ごみ：中国では、弁当やテイクアウト用に使用される使い捨ての発泡スチロール容器、紙の容器、ビニール袋を指す。

### 4 活動期間

2012年10月より

### 5 活動場所

瀋陽市

### 6 活動参加人数

約400人

### 7 発表要旨

活動は二つの部分からできている。

#### (1) 学校内では、

- ・スナック菓子の袋のポイ捨てを禁止する。
- ・随時、自発的にゴミ拾いをする。
- ・使い捨てのビニール袋を使用しない。

#### (2) 校外では、

- ・祝日・休日を利用して、地域や公共の場で、ビラの取り除きや街路の掃除など、環境保全活動を行う。
- ・瀋陽市の污水处理場を見学し、環境保全の小論文を書く。
- ・学校・学生・父兄のインタラクティブモデルを通じて学生が自分の親に「環境保全家庭になる」と提案する。使い捨ての割り箸・ビニール袋を使用しない。節水、禁煙、ゴミの分類、低炭素生活などについて、学校で学んだ環境知識を家族に教える。

## 環境サークルの活動報告

1. 自治体名：江原道
2. 発表者名：チェ・ウンウ(CHOI Eun-woo), ユ・ヨンウン(YU Young-eun)  
尚志(サンジ)女子中学校 (Sanji Girls' Middle School)
3. 活動名：環境サークルの活動報告
4. 活動期間：2008.3～現在
5. 活動場所：江原道原州市
6. 活動参加人数：50人

### 7 活動をはじめた経緯

持続可能な発展に対する関心が高まっている状況の中で、小人数で低炭素グリーン環境分野のプロジェクトを実施する自主的なサークル活動を通じて、科学教育の理論的なアプローチや素養の涵養及び様々な経験を土台としたグローバルリーダーの育成を目的としている。

### 8 発表要旨

- (1) グリーン成長分野：大気質の調査活動、資源循環活動、SESE ナラ活動（エネルギー節約体験キャンプ）、グリーン環境実験及びNIE活動（グリーン成長関連勉強会）、緑の活動（鳥小屋作り、工芸品作り）及び水中モニタリング活動
- (2) 学校内での担当別活動：炭素排出量点検票、エネルギー守り隊活動、UCC制作及び試写
- (3) 大会、講演、共同研究：全国規模の環境大会に出場、環境専門家の講演、視覚化作業専門家の講演（映像制作実務など）、環境に配慮した施設等の体験学習、研究所との協力



## 若い世代が環境に優しい将来のために！

### 1 自治体名

ハバロフスク地方

### 2 発表者名

テレンティエフ・アレクセイ Terent`ev Aleksey (ハバロフスク市第3号総合学校)

### 3 活動名

環境保全のための実施活動

### 4 活動期間

2013年4月～6月

### 5 活動場所

ハバロフスク地方

### 6 活動参加人数

8,000人以上

### 7 活動を始めた経緯

環境問題を解決するために活動を始めた。

### 8 発表要旨

ロシアでは、2013年を環境保護年とすることが宣言された。

毎年、ハバロフスク地方では、数多くの環境イベントが開催される。しかし、今年は特別な年である。

ハバロフスク地方政府令において、2013年の環境保護年の実施にあたり、100以上の主要なイベントを含む行動計画書が承認された。

ハバロフスク地方の若い世代も、実施されている環境運動に積極的に参加した。すべての市町村において、清掃活動が行われている。

一方で、住民への環境文化の普及啓発が継続的に行われているにもかかわらず、相変わらず不法投棄が発生している。

住民の憩いの場である公園、河川敷等では特に不法投棄が多くみられる。その地域は人間活動による影響を最も受けやすい。

ハバロフスク地方立の天然自然公園であるディナモ公園は多くの市民と観光客が集まる憩いの中心地となっている。しかし、利用者が清潔さと秩序をいつも守っているというわけではない。

去年と同様に、お手本を見せた清掃活動の参加者は、その活動によって他の住民と観光客に故郷を愛すること、自然環境に優しくかつ責任を持つこと、天然資源を合理的に利用する必要性を知らせた。

活動の開催中に、ガラスとプラスチックごみが52袋、その他のごみ40袋が集められた。

活動の最後に、参加者を対象とした宝くじの抽選会が行われた。宝くじの賞品として、リサイクル企業で生産される商品が提供された。

ハバロフスク地方の様々なところでは、清掃・緑化活動が行われた。参加者の総人数は4,200人以上に達した。

大学生は「グリーンパトロール」という環境キャンペーンに積極的に参加した。住民の憩いの場では、指定の場所にごみを捨てるようにと呼びかけているポスターを設置したり、ごみ袋を配布したり、説明をしたりしていた。

今年、公立学校、孤児院から約150名の生徒が廃棄物アートコンテストに参加した。

一年の間に、地域の環境問題を学習したり、解決方法を見出したりしていた。

高校生部門では、焦点が集まる家庭ごみや産業廃棄物リサイクル、不法投棄等の問題を取り上げられたレベルの高い研究が行われた。表彰された参加者の中には、ポリエチレンを加工して、エタノールを製造するプロジェクトを提案した生徒もいた。

低学年の生徒が廃棄物から興味深い作品を作成していた。

青少年だけではなく、環境保全活動に子供たちの参加を積極的に呼び掛けた機関も様々な部門で表彰された。

恒例の行事として、市民と若者は植樹デーに参加した。ハバロフスク市では、大学生と自然保護施設の職員がムラヴィヨフ＝アムルスキー記念地方立公園の斜面を補強するために植樹した。

例年、開催される国民植樹デーは、極東地方の森林を増やしたいという希望を持っている人を集めるための良い行事として定着した。

ハバロフスク地方では、植樹に参加した人数は3,000人以上であった。ハバロフスク市では、植樹活動に政府機関、団体から350人が参加した。この活動の開催中、24,000本以上の朝鮮五葉の苗が郊外に植樹された。

開催される環境保全活動には必ず小中高生や大学生が参加する。私たちには我々の未来に責任がある。私たちは協力し合える環境に生きていきたい。

天然資源の保護、向上のために協力しよう！

## 環境保全モデル校活動

1. 自治体名: 忠清南道
2. 発表者名: カン・タヘ (Kang Da Hae)、キム・タウン (Kim Da Un)、  
チェ・ハウン (Choi Ha Eun)、キム・イジス (Kim Leejisoo)  
瑞山石林中学校 (Seosan Seokrim Middle School)
3. 活動名: 環境保全モデル校活動
4. 活動期間: 2013年3月20日～2013年6月4日現在まで
5. 活動場所: 瑞山石林中学校及びその周辺地域(舒川 (Seocheon), 安眠島 (Anmyeondo), 洪城 (Hongseong), 八峰面 (Palbongmyeon), 海美 (Haemi) など)
6. 活動参加人数: 全校生徒
- 7 活動をはじめた経緯: 環境保全モデル校の選定により実施

### 8 発表要旨

本校は 2013 年に忠清南道で唯一の環境保全モデル校として選定され、下記のように様々な領域で環境と関連のある校内行事と外部の行事に持続的に取り組んでいる。

- a. 授業時間における環境教育の実施
- b. 様々な環境関連特別講義の定期的な実施
- c. グリーン成長実践録を使用した環境教育
- d. 校内放送を通じた環境教育
- e. 仕分け回収及び資源再利用を通じた環境教育
- f. 瑞山市 小・中学生及び父兄を対象とした環境創意祭の実施
- g. 環境の日における校内行事の実施
- h. グリーンボランティアを通じた環境教育
- i. サークル活動を通じた環境教育
- j. 給食時間における環境教育
- k. 体験活動を通じた環境教育

上記のすべての環境教育は地域団体と連携した体験活動が主なものであり、地域住民や父兄の方々の積極的な協力により活発に実施している。

## 地球資源を大切にし、低炭素活動を実行する

- 1、自治体名：黒竜江省
- 2、発表者名：孫 雲揚(SUN Yun Yang)  
(黒竜江省ハルビン工業大学附属中学校)
- 3、活動名：地球資源を大切にし、低炭素活動を実行する
- 4、活動期間：2013年4月22日
- 5、活動場所：ハルビン市
- 6、活動参加人数：200人
- 7、発表要旨：

### ①活動の内容

- ・今年の4月22日に黒竜江省が「世界地球の日」という記念活動を主催した。
- ・中学生環境体験団は、「地球資源を大切にし、低炭素活動を実行する」を提唱した。
- ・古新聞をエコ鉛筆と引き換えるなど、環境保全活動を実施した。

### ②活動の流れ

- ・中学生の代表が「地球を守り、低炭素行動を」の提議書を読み上げ、皆さんに“水を大切にし、電源をこまめに切り、低炭素生活を送り、地球を守ろう”と呼び掛けた。
- ・学生たちは積極的に列を作って、「古新聞をエコ鉛筆と引き換える」活動に参加した。

### ③活動の感想

- ・もし、黒竜江省の学生が皆、エコ鉛筆を使うなら、1800トンの古新聞が直接に利用されることになる。それによって、木材を2万 $\text{m}^3$ 節約でき、良質なムクゲの木の伐採量を十数年分にあたる4万本も削減することができ、60ヘクタールの森林が保護されることになる。
- ・1ヘクタールの広葉樹林が1日、 $\text{CO}_2$ を1000kg減らし、 $\text{O}_2$ を730kg発生させることを考えれば、黒竜江省では、毎年、2200万kgの $\text{CO}_2$ を減らし、1600万kgの $\text{O}_2$ を発生させることができるだろう。我が国の鉛筆の年生産量を70億本として計算すると、直接利用可能な古新聞は4万トンで、90万本の木が伐採されなくても済み、節約できる木材が46万 $\text{m}^3$ 以上となり、1400ヘクタールの森林が保護される。また、年間50万トンの $\text{CO}_2$ を減らすことができ、37万トンの $\text{O}_2$ を発生させることができ、我が国の省エネ・汚染物質削減に大きく貢献することになる。

## 国際環境委員会による、全校生徒の環境意識向上のための活動

### 1 自治体名

富山県

### 2 発表者名

久道遙香・北山ちえみ・橋本笑佳（大門高等学校 2年）

### 3 活動名

国際環境委員会による、全校生徒の環境意識向上のための活動

### 4 活動期間

委員会設置（2003年度）以来、学期ごとに定期的に活動

### 5 活動場所

大門高校及び学校周辺

### 6 活動参加人数

18名（国際環境委員 各クラス2名×学級数）

### 7 活動を始めた経緯

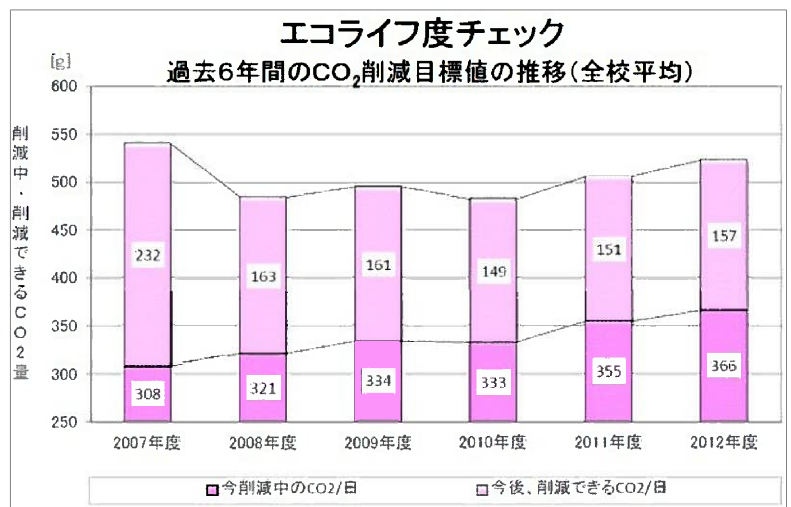
大門高校国際環境委員会は、「国際理解・国際協力」に関する活動並びに「環境問題」に取り組む活動を推進することを目的に2003年度に発足した。2007年度には米国元副大統領アル・ゴア氏が提唱した「自分たちに出来る10のこと」に続くアイデア募集を全校生徒に呼びかけ、委員たちの提案から実現した「エコライフ度チェック」「ノークーラーday」が現在も継続実施されている。

### 8 発表要旨

国際環境委員会では環境に関する以下の3つの活動を継続的にやっている。

- 各家庭における資源の消費量を二酸化炭素排出量に換算するワークシートを用いて現在の生活状態を把握し、今後削減できる二酸化炭素消費量を意識する「エコライフ度チェック」を通して、各自の生活状態の改善につなげている。
- 7月～8月の特別授業期間中の比較的過ごしやすい日を1日選んでエアコンの使用を控える「ノークーラーDAY」の実施により、どのくらいのエネルギーが抑えられるのかを認識するとともに、また風鈴や打ち水など夏を涼しく過ごす先人の知恵を再確認する機会としている。
- 射水市のイベントである「越中だいもん 凧まつり」開催に合わせて、会場となる庄川河川敷の清掃活動を地域ボランティア委員会と共同で行っている。身近な河川敷を苦勞しながら清掃することで、ゴミの減量並びに分別・再資源化の意識を高めることを目的としている。

これらの活動はいずれも、日常の学校生活の中で生徒誰もが実施できることである。私たち高校生には何ができるのかを考え、少しずつでもできることから実行に移すとともに、全校生徒に呼びかけて広めていきたい。



## 「海のゴミを減らす」グリーン環境を守るブルーリーダー活動

- 1 自治体名：慶尚南道
- 2 発表者名：チョ・ソンヒョン (JO Sung-hyun)、ソン・ヒョンベ (SON Hyun-bae)、  
シン・チェユン (SHIN Chae-yoon)  
(統營忠武 (Tongyeong-Chungmu) 小学校)
- 3 活動名：「海のゴミを減らす」グリーン環境を守るブルーリーダー活動
- 4 活動期間：2013.3.01 ~ 現在
- 5 活動場所：校内及び統營 (Tongyeong) 海岸地域
- 6 活動参加人数：忠武小学校の生徒(400名以上) 及びグリーンボランティア団

### 7 活動をはじめた経緯

海の環境汚染による被害やその復旧費用の急増により、海の環境に対する関心や環境教育に対する認識が広がり、自然と環境の効率的な管理、持続可能な利用や保全、未来志向的で環境的素養を強化する環境教育に対する要求が増えている。したがって海洋環境保全の生活化のために子供の時から海洋を愛する気持ちや生命尊重の意識向上及び実践教育のために体験中心の体系的なプログラムを企画し、適用することにより、海の清掃活動を通じて海を守る運動を続け、海の大切さを普及啓発していきたい。

### 8 発表要旨

#### (1) 海ごみを減らす環境教育のための条件づくり

- a. 海ごみを減らす環境教育のためのネットワークの構築
- b. 海ごみを減らす海洋環境教育のための教育共同体の環境意識の向上

番号	日時	研修テーマ	方法	対象	備考
1	4.03	・学校でテーマを作り環境教育と海洋環境教育を実施	集合、研修	生徒、父兄	
2	4.10	・環境を第一に考える生活の中での小さな実践	集合、研修	学生、父兄	
3	5.02	・グリーン統營作りキャンペーン活動 (上半期)	セミナー	学生、教師	
4	5.29	・家庭の中でできる海ごみを減らすための実践	家庭通信文	学生、父兄	
5	9.14	・生態系観察の種類と海ごみ削減の方法	集合、研修	学生、父兄	
6	10.17	・海ごみ削減を通じた持続可能な環境教育	集合、研修	学生、父兄	
7	11.07	・海洋環境のための科学教室(統營海洋警察署主催)	実習教育	学生	

- c. 海ごみを減らす環境教育のための学校教育条件づくり

## (2) 海の世界教育プログラムの企画及び適用

### a. 教育課程と連携した創造的な体験活動の運営

番号	活動日時及び期間	体験活動内容	対象	場所
1	毎週水曜日の昼食時間	環境美化の日の運営	全校生徒（順番制）	学校の運動場
2	4.03	「海を愛する心をこめて」のTシャツ制作	5~6年生	各教室
3	4.16	1学期現場体験学習（環境美化活動）	全校生徒	統営海洋文化探検場
4	4.22~5.04	海洋環境守りキャンペーン活動（海を愛する体験の日、海祭り、健康広場など）	全校生徒	地元の島、公園など
5	5.05~	グリーン統営作り運動（海を愛する誓約書）署名活動	全校生徒、父兄	校内及び広場
6	7.17~7.18	屋外修練活動（海を愛する教育）	全校生徒	海洋少年団修練場など
7	9.15	国際沿岸美化の日	4年生	地元の公園一帯
8	10.08	2学期現場体験学習（環境美化活動）	全校生徒	慶南海洋文化探検場
9	11.11~11.13	海を愛する実践キャンペーン活動	全校生徒	学校内
10	11.15	海洋汚染写真の観覧	全校生徒	各教室

### b. 海洋探究（海ごみ）サークル運営（教師、学生）

- 教師：S-STEAM 研究会活動、慶南海洋教育研究会の活動など

- 学生：海洋科学探究クラス、海洋文化探究クラス、YSC 海洋教育サークルの活動

### c. 海ごみを減らす環境教育教材

- 海ごみ分類、特徴分析、海洋保全活動の記録

## (3) 環境体験活動を通じたグリーン成長実践意識の涵養

### a. 忠武'Blue-Green Day'ボランティア活動プログラム運営

順番	日時	対象	内容	備考
1	4.06	教師	地元の湿地探査及び美化活動	学生サークル
2	4.20	5年生	海ごみ拾い及び分類	
3	4.25	6年生	家庭と連携して海を愛することの実践	ホームページに掲載
4	4.27	4年生	海ごみ拾い及び分類	
5	5.14	3年生	海を愛することを絵で表現	
6	7.20	海洋少年団	海ごみ拾い及び分類	
7	8.06	ガールスカウト	海の環境の重要性を普及啓発するキャンペーン	環境団体と連携
8	9.14	海洋少年団	海の環境教育関連施設の見学	水産科学館
9	9.28	ガールスカウト	海ごみ拾い及び分類	

### b. 教育福祉優先支援事業と共に行う'エコスクール'

### c. 地域社会と連携してグリーン成長環境実践意識の普及啓発

我らは 錦山を守る SKYPE 生態環境探査隊 (Eco-Scout)

- 1 自治体名 : 忠清南道
- 2 発表者名: チョ・ヨンファン(Cho Yong Hwan)、キム・テミン(Kim Tae Min)  
錦山高等学校 (GeumSan High School)
- 3 活動名 : 我らは 錦山を守る SKYPE 生態環境探査隊 (Eco-Scout)
- 4 活動期間 : 2013.03.04 ~ 2013.06.現在
- 5 活動場所 : 錦山高等学校及び周辺の山や河川
- 6 活動参加人数 : 本校 2, 3 年生 19 名
- 7 活動をはじめた経緯
  - 2012 年に科学サークルでは、地域に関連する探究活動において、錦江 (Geum River) に流入している鳳凰川(Bonghwangcheon)と進樂山 (Jinaksan)、クムソン山 (Geumsongsan)、マンイン山(Maninsan )などを探査することで、地域の清浄さと環境の大切さを体験することができた。
  - 2013 年に錦江流域での活動を環境庁が募集する環境体験教育プログラムに応募し、地域の環境を守る生態環境探査隊を組織して、運営した。

8. 発表要旨

	環境体験活動	詳細内容
1	この地域の環境実態調査及び環境地図の作成	・下水処理場や家畜の糞尿処理実態、廃棄物処理場や産業団地などの環境実態調査及び環境地図作成
2	探究活動及び調査資料の学校内での広報活動	・錦山地域植生調査、植物標本制作、淡水魚の状況及び分類、調査研究活動 ・水生昆虫の生活史の探究活動に関する動画の自主制作 ・進樂山で集めたカブトムシの飼育、自由テーマ研究活動
3	水質汚染調査及び環境浄化活動	・錦山川の水質汚染度 (pH、D0、COD、水温、アンモニア性窒素、リン酸塩) 測定、報告書作成、討論会開催 ・週 2 回の錦山川周辺環境浄化活動 ・水質ランク別の生息水生生物種を利用した環境実態調査
4	「持続可能な発展」運動の活性化および広報活動	・広報書籍「持続可能な発展」の発刊及び管轄内の学校に配布 ・校内キャンペーン及び広報資料配布 : 給食の残飯などを減らす活動、水資源保護活動、節電エネルギー保全活動(錦山郡の電力会社と連携)



## 2013 環境宣言文（案）

2013 年北東アジア地域環境体験プログラムに参加した私たち 4 カ国の青少年は、環境保全のための意見交換や情報共有、環境体験活動を通じて環境の大切さを実感し、環境問題を解決するために取り組んできた。

私たちは、自然保護の重要性、海洋など各地で排出されるゴミの問題、青年会議を通しての環境保全活動、地球温暖化を防ぐための低炭素運動、青少年を対象とする環境意識の強化など様々な分野について議論し、これらの環境問題について、今後進むべき方向をこの環境体験活動を通じて提示した。

“北東アジア地域環境体験プログラム”に参加した私たちは、持続的な友好交流をもとに、すべての世代に環境保全の重要性が伝わるよう最善を尽くし、北東アジア地域の清浄な環境を保全しようという共通の使命を成し遂げることができるよう、常に協力することを宣言する。

江原道

2013 年 8 月 22 日

北東アジア地域環境体験プログラム参加者一同